

2020年11月28日(土) zoomにて

担当 趙ウニル

【校勘①】(『太平經』卷之五十五「力行博學訣」第八十二・「知盛衰還年壽法」第八十三を用いた)

△「常苦不熟、熟者悉目知之、不善思其志竟」、『太平經』作「常苦其不熟、熟者悉自知之、不善思其至意」。

○「得而不力行、與不得何異」、『太平經』作「得而不力行、與不得何異也」。

○「渴可救乎」、『太平經』作「渴猶不可救」。

○「此非愁他人」、『太平經』作「此者非能愁他人也」。

○「猶樂象天、轉運而不止、百川流聚、乃成江海、『太平經』作「猶樂欲象天、轉運而不止、百川流聚、廼成江海」。

△「天之受事、各有法律。令有可屬、道有可爲」、『太平經』作「天之授事、各有法律。命有可屬、道有可爲」。

○「雖使預見、未可保也」、『太平經』作「雖事豫見、未可得保也」。

○「預開其路」、『太平經』作「豫開其路」。

○「未嘗隨其後」、『太平經』作「未常隨其後也」。

【原文①】

(『太平經』卷之五十五「力行博學訣」第八十二に当たる部分)

得書讀之、常苦不熟。熟者悉目知之。不善思其志竟。不精讀之、雖得吾書、亦無益也。得而不力行、與不得何異。見食不食、與無五穀何異。見漿不飲、渴可救乎。此非愁他人、還自害、可不詳哉。故聖人力思、君子力學、晝夜不息也、猶樂象天轉運而不止、百川流聚乃成江海。子慎吾言。

(『太平經』卷之五十五「知盛衰還年壽法」第八十三に当たる部分)

天之受事、各有法律。令有可屬、道有可爲、出或先或後、其漸預見。比若萬物始、萌

於子、生於卯、垂枝於午、成於酉、終於亥。雖使預見、未可保也。事各有可爲、至光景先見、其事未對、預開其路。天之垂象也、常居前、未嘗隨其後。

【書き下し文①】

書を得て之を読み、常に熟せざるを苦しめよ。熟する者は悉く目し之を知る。其の志竟を善思せず、精ならずにして之を讀めば、吾が書を得と雖も、亦た益無きなり。得ても行いに力めざれば、得ざると與に何んぞ異ならんや。食を見ても食べざれば、五穀無きと與に何んぞ異ならんや。漿を見ても飲まざれば、渴き救う可けんや。此れ他人を愁うるに非ず、還つて自ら害すること、不詳なりとす可けんや。故に聖人力めて思い、君子力めて學ぶこと、晝夜息まざるや、猶お天の轉運して止まらず、百川流れ聚まりて乃ち江海を成すを象るを樂むがごとし。子 吾が言に慎めよ。

天の事を受くるや、各おの法律有り。令に屬す可く有り、道に爲す可く有り、出づること或いは先んじ或いは後れるも、其の漸預め見わる。比えば萬物始まりて、子に萌し、卯に生じ、午に枝を垂れ、酉に成し、亥に終るが若し。預め見わるるを使うと雖も、未だ保つ可からざるなり。事に各おの爲す可き有り、光景 先に見るるにに至りて、其の事未だ對せず、預めして其の路を開く。天の象を垂れるや、常に前に居り、未だ嘗て其の後を隨わず。

【現代日本語訳①】

この書を手に入れて読み、いつもよく理解していないことを悩みなさい。(この書に)精通する人はすべてに渡って見て知っているのである。その志の問い詰めをよく考えず、不誠実に讀むならば、私の本を手に入れたとしても、無駄である。持っていてその実践に尽力しなければ、持つていないことと何が違うだろう。食べ物を見てもそれを食べなければ、食べ物が不在状態と何か違うだろう。飲み物を見てもそれを飲まなければ、渴きが消えるわけがない。これは他人を愁うことでもなく、反って自分を害することであり、不吉なことではないだろうか。そうであるので聖人が尽力して考え、君子が尽力して學ぶことが昼も夜も止まることがないのは、天が循環運行して止まらないこと、多くの川が流れ集まってそこではじめて広い江海になることをならおうとすることのよ

うなことである。あなたは私の言葉をよく聞いてください。

天が仕事を授けることには、それぞれ標準になる法度がある。命令には帰属すべきところがあり、道にははたらきをすべきところがあり、現れることが先んじたり遅れたりしてもそのきざしはあらかじめ現れる。例えば（植物のように）萬物が（その存在を）始まって、子（北、冬至、二月）に芽をして萌え、卯（東、春分、三月）に生育し、午（南、夏至、五月）に枝を垂れて大きくなり、酉（西、秋分、八月）に成熟し、亥（西北、立冬、十月）に枯れることのものである。（兆しの）預見をはたらかせたとしても、まだ長く持ち続けることはできない。物事にはそれぞれできることがあり、兆候が先に見えるようになったとしても、物事自体はまだ対応できておらず、前もって経路を開いただけである。天が（雨や星などの天）象を降すことは、いつも（物事の）前にあり、その後を行って行ったことはこれまでにない。

【注釈①】

○善思

『荀子』成相

臣謹脩、君制變、公察善思論不亂。

○不精

『管子』心術下

形不正者德不來、中不精者心不治。（注、精、誠至之謂也。）

『淮南子』

此身強而成功者也。是故田者不強、困倉不盈。官御不厲、心意不精。

○無益

『論語』衛靈公

子曰、吾嘗終日不食、終夜不寢、以思、無益、不如學也。

○力行

『禮記』中庸

好學近乎知、力行近乎仁、知恥近乎勇。

○不詳

『易』大壯卦

(上六)象曰、「不能退、不能遂」、不詳也(參考：孔疏、正義曰、「不詳也」者、祥者、善也)。

○聖人力思、君子力學、晝夜不息也

『論語』為政

子曰、學而不思則罔、思而不學則殆。

『易』乾卦·象傳

象曰、天行健、君子以自強不息。

○天轉運而不止

『詩』大雅·雲漢

倬彼雲漢、昭回于天(鄭玄)箋云、：精光轉運於天、時旱渴雨、故宣王夜仰視天河、望其候焉。()

○百川流聚、乃成江海

『荀子』勸學

積土成山、風雨興焉。積水成淵、蛟龍生焉。積善成德、而神明自得、聖心備焉。故不積跬步、無以致千里。不積小流、無以成江海。

○子慎吾言

『太平經』卷之一百一十七「天咎四人辱道誠」第二百八(『太平經合校』卷一百一十七庚部之十五)

子慎吾言。吾言正天之兵、不可詆冒。：吾親以天上行、而下知其□□、萬不失一也。

○天之受事、各有法律。令有可屬

『莊子』雜篇·徐無鬼

招世之士興朝、中民之士榮官、筋力之士矜難、勇敢之士奮患、兵革之士樂戰、枯槁之士宿名、法律之士廣治、禮教之士敬容、仁義之士貴際。

『管子』七臣七主

夫法者，所以興功懼暴也。律者，所以定分止爭也。令者，所以令人知事也。法律政令者，吏民規矩繩墨也。

『太平經』卷之三十六「事死不得過生法」第四十六（『太平經合校』卷三十六丙部之二）人生、象天屬天也。人死、象地屬地也。∴人生象天屬天、人卒象地屬地。

○其漸預見

『周易』序卦傳

物不可以終動、止之、故受之以艮。艮者止也。物不可以終止、故受之以漸。漸者進也。

『史記』龜策列傳第六十八

會上欲擊匈奴、西攘大宛、南收百越、卜筮至預見表象、先圖其利。

『漢書』司馬相如傳下

明者遠見於未萌。

○萬物始、萌於子、生於卯、垂枝於午、成於酉、終於亥

『太平經』卷三十九「解師策書訣」第五十（『太平經合校』卷三十九丙部之五 64）

萬物始萌、直布根以本足生也、行此道、其法迺更本元氣、得天地心、第一最善、故稱上皇之道也。

『太平經』卷之四十一「分解本末法」第五十三（『太平經合校』卷四十一丙部之六）

萬物始萌於北、元氣起於子、轉而東北、布根於角、轉在東方、生出達、轉在東南、而悉生枝葉、轉在南方而茂盛、轉在西南而向盛、轉在西方而成熟、轉在西北而終。

○先見

『易』繫辭下傳

幾者、動之微、吉之先見者也。

○天之垂象也

『易』繫辭上傳

是故天生神物、聖人則之。天地變化、聖人效之。天垂象、見吉凶、聖人象之。河出圖、洛出書、聖人則之。

.....

【校勘②】

●「不可不通」、『太平經』作「不開不通」。『太平經』にしたがう。

○「是以爲明證道審而言、萬不失一」、『太平經』作「以是爲明證道審而言萬不失一也」。

○「則可除疾」、『太平經』作「則可以除疾」。

○「災異自消」、『太平經』作「災異自消」。

○「萬物各有可爲設張」、『太平經』作「萬物之生各有可爲設張」。

△「非其友」、『太平經』作「非其有」。

○「言不良」、『太平經』作「言種不良」。

【原文②】

(『太平經』卷之五十五「知盛衰還年壽法」第八十三に当たる部分)

得其人而開通、得見祐助者是也。不〈可〉〔開〕不通、行之無成功、即非其人也。是以爲明證、道審而言、萬不失一。但是其人、明爲其開、非其人則閉。審得其人、則可除疾、災異自消、夷狄自降、不須兵革、皆自消亡。

萬物各有可爲、設張得其人自行、非其人自藏。凡事不得其人、不可強行。非其友、不可強取。非其土地、不可強種、種之不生。言不良、內不得其處、安能久長。六極八方、各有所宜、其物皆見、事事不同。大人得之以平國、中士得之爲良臣、小人得之以脫身。

【書き下し文②】

其の人を得て開通し、祐助せらるるを得る者は是れなり。開せず通じず、之を行うも成功無くは、即ち其の人に非ざるなり。是こを以て明證を爲し、道審らかにして言えば、萬に一も失わず。但是(およそ)其の人は、明らかに其の開くるを爲し、其の人に

非ざれば則ち閉じる。審(まこと)に其の人を得れば、則ち疾を除く可く、災異は自ずから消え、夷狄は自ずから降り、兵革を須(もち)いず、皆自ずから消亡す。

萬物各おの爲す可く有り、設張するに其の人を得れば自ずから行い、其の人に非らざれば自ずから藏る。凡そ事に其の人を得ざれば、強いて行ふ可からず。其の友に非らざれば、強いて取る可からず。其の土地に非らざれば、強いて種う可からず、之を種えても生じず。言は良かずにして、内に其の處を得ず、安んぞ能く久長ならんや。六極八方、各おの宜しき所有り、其の物皆見れ、事事は同じからず。大人は之を得て以て國を平ぎ、中士は之を得て良臣と爲り、小人は之を得て以て脱身す。

【現代日本語訳②】

その人を得て(道が)開き(心が)通じ、助けてもらふことができるということがこれである。(道も)開かれず(心も)通じず、実践しても成功しないということは、その人でないからである。ゆえに明らかに証拠を出し、道を明らかにしていえば、一つの間違ひもない。あらゆるその人は明らかに(道を)開くが、その人でなければ(道は)閉じられる。確実にその人を得れば、疾病はなくなることができ、災異は自然に消え、夷狄は自然に降伏し、武器を使わずにすべて自分から亡びる。

萬物はそれぞれはたらきをすべきところがあり、設けることはその人がいれば自然に行われ、その人でなければ自然に隠れる。すべての物事にその人を得ることができなければ無理やりに行つてはならない。その友でなければ、無理やりに取つてはならない。その土地でなければ無理やりに植えてはならず、植えても生えない。意味は、良くないものは(植えても)、その内室にふさわしい場所がないのに、どれほど長く続くだろうかということである。六極八方にはそれぞれふさわしい適切さがあるので、その物がすべて現れても、物事は同じではない。大人はこれを得て國を平安に治め、中士はこれを得て良き臣下になり、小人はこれを得ておかれた状況から抜け出す。

【注釈②】

○得其人而開通、得見祐助者是也。不可不通、行之無成功、即非其人也。

『太平經』卷三十九「解師策書訣」第五十(『太平經合校』卷三十九丙部之五)

夫物將盛者、必當開通其門戶也。真人到期月滿、出此書宜投之開明之地。開者、闢也、

通也、達也、開其南、更調暢陽氣、消去其承負之厄會也。

『太平經』卷之一百一十九「道祐三人訣」第二百一十三（『太平經合校』卷一百十九庚部之十七）

夫道與人、比若風雨、爲者則善、不爲則已。好爲者、則其人也。不好爲者、即非其人也。爲者不用力、易開通者、即是其人也。不開不通、終日無成功、即非其人也。

『太平經鈔』庚部卷之七

夫道與人、比若風雨、爲者則善、不爲者則已。為好者、則其人也、不為好即非其人也。為者不用力、易開通者、即是其人也。不開通、終日無成功、即非其人也。

○萬不失一（ミスが全くない）

『韓非子』解老

脩身者以此別君子小人、治鄉治邦蒞天下者各以此科適觀息耗則萬不失一。

『史記』淮陰侯列傳

貴賤在於骨法、憂喜在於容色、成敗在於決斷、以此參之、萬不失一。

※「萬不失一」、『太平經』に31件の用例あり。

○萬物

「易」乾卦・彖傳

象曰、大哉乾元。萬物資始、乃統天。雲行雨施、品物流形。

○安能久長

『老子』第7章

天地地久。天地所以能長且久者、以其不自生、故能長生。是以聖人後其身而身先、外其身而身存。非以其無私邪。故能成其私。

『莊子』雜篇・盜跖

今丘告我以大城衆民、是欲規我以利、而恒民畜我也、安可久長也。

○各有所宜

『太平經』卷之五十四「使能無爭訟法」第八十一（『太平經合校』卷五十四丁部之三）
萬物各自有宜。當任其所長、所能爲、所不能爲者、而不可強也。

『太平經』卷之一百一十四「病歸天有費訣」第二百一（『太平經合校』卷一百十四庚部之

十二)

惟人居世之間、各有所宜、各有所成。

○脫身

『史記』卷七項羽本紀第七

沛公則置車騎、脫身獨騎、與樊噲·夏侯嬰·靳彊·紀信等四人持劍盾步走、從酈山下、道芷陽間行。